

小学校 3 年生の高松大学での図画工作体験授業の 報告及び考察

佐々木 啓祐*

A report and observations on an art and craft experience class
for third graders at an elementary school at Takamatsu University

SASAKI Keisuke

要約

本稿は、本年と昨年に本学で 100 分間実施した高松市立古高松小学校の 3 年生への図工の授業について、当日の具体的な提示物や配布資料、学習指導案などの具体的な指導内容を示すとともに、授業後の子どもたちの作品（表現タイプ別など）やアンケート調査結果、指導補助員として参加した学生たちの感想等を掲載し、授業の全容を明らかにした。

その結果、本学の学生たちを含めて指導に携わる方々に、小学校図画工作科の「絵に表す活動」の指導の在り方について、特に、子どもたちが、示された順番どおりに描いたり、参考作品を真似て描いたりすることの是非について、考えていただける材料が提供できものと考えている。

キーワード：絵に表す活動 描き方指導 発達段階と題材の自由度

Abstract

This article describes the 100-minute art classes given to third graders at Takamatsu Municipal Takamatsu Elementary School by Takamatsu University in 2023 and 2024 and presents the specific teaching content. These include such as specific items presented and handouts on the day, lesson plans, as well as the children's works after the classes (separated into types of expression), questionnaire survey results, and impressions of the university students who participated as teaching assistants, to shed light on the full picture of the classes.

As a result, it is hoped to provide materials that will enable those involved in instruction, including the university students, to think about how to teach activities in expression with painting in elementary school art and craft classes, and in particular the pros and cons of having children draw in the order shown or copying reference works.

key words: drawing activities, drawing instruction, developmental stages and freedom of subject matter

受理年月日：2024 年 7 月 31 日 *高松大学発達科学部准教授

1. はじめに

令和5年・6年の5月に春の校外学習で本学を訪れた高松市立古高松小学校3年生 120名あまりの児童たちに対し、図画工作の授業を実施した。教材は、クレヨンやパスを使って色彩豊かに、令和5年は「かたつむり」を、令和6年は「魚」を描かせた。

本授業は、児童が私の図画工作の授業を受けることの目的の他に、希望する学生たちが当該授業に補助員として参加し、児童たちへの助言等を与えることなど、指導法の在り方について考える機会とするものである。さらに、4年後期の教育実践演習（必修）の1コマで実践報告を行い、全学生が指導法について考える機会としている。

2. 授業の実施

(1) 実施日 時間	令和5年5月1日（月） 11:00～12:00	令和6年5月2日（木） 10:40～11:40
(2) 児 童	高松市立古高松南小学校3年生 107名	105名
(3) 場 所	高松大学 1402 演習室	
(4) ねらい	小学校低・中学年が行う色彩学習 クレヨンやパスを使って、描くものの特徴をとらえ、色彩豊かに、想像して描くことができる。	
(5) 題 材	「おしゃれなかたつむり」 “かたつむり”	「にじいろすいぞくかん」 “魚”

表1 授業の概要

- (1) 春の校外学習で来学 10:00 から学内見学 12:00 から昼食（中庭）
13:00 から学生による読み聞かせ視聴
- (2) 児童数はアンケート回答者数
- (3) 120名が絵を描くことができるテーブルのある講義室
（流し台があり絵の具を使って絵を描ける図工教室2室は各部屋の定員が30名程度）
- (4) 教師からの導入、準備・片付けを含み100分の制作時間で完成できる教材を考えた場合、八つ切りまたはA4の大きさとなる。

見て描くのではなく、参考となる写真や作品を手掛かりとして想像して描く。

〔児童作品〕

令和5年「おしゃれなかたつむり」



図1 児童作品と制作風景

令和6年「にじいろすいぞくかん」



図2 児童作品と制作風景

3—1. 指導の実際 令和5年「おしゃれなかたつむり」

(1) 本時の学習過程

- ① 本時間の題材（描くもの）を知る ② かたつむりの特徴を知る



図3 スライド

かたつむりの体は、“から”と“あし”でできており、目が触角の先にあることや、“から”には“うずまき”があることを確認する。

- ③ 参考作品を見て、めあてを知る

〔子どもたちへの参考作品〕



図4 スライド（教師の作品）



図5 スライド

観音寺市立柞田小学校1年（R4.7.11）

めあて 「クレヨンやパスを使って、描くもの（かたつむり）の特徴をとらえ、色彩豊かに、想像して描こう！」

参考作品として見せる観音寺柞田小学校1年生の作品は、令和4年7月11日に同校を訪れた際に、教室の背面に掲示されていた作品を撮影したものである。

こうした様々な色を使って描くことの経験を積み重ねることにより色彩感覚は育っていくと考えるが、本題材はそのための格好の題材である。

色彩トレーニングとして、描くもの（かたつむり）や描く材料（クレヨンやパス）、を固定し、描き方も指示する中にも、個性的な作品づくりを期待した。



図6 実物掲示（学生作品）

学生作品は、本授業のために「図画工作 I-I（2年）」で学生が描いたもので、当日会場に掲示した。

④ 描き方（制作手順）を知る



図7 スライド（制作手順）

⑤ 制作

- ① 線描き 鉛筆で輪郭線を画面いっぱいに描いた後、クレヨンやパスで線を塗っていく。マジックを使っても、どんな色で描いてもよいこととした。
- ② 色塗り 模様の線も含め、いろいろな色を使うよう指示した。



図8 制作風景

(2) 完成作品



図9 掲示作品
(R5.6.14 古高松南小学校 掲示版より)

校内に設置されている学年の掲示版に全員の作品が掲示された。



(3) 授業後の児童へのアンケート調査

授業後に学校に戻った児童たちに、下記の「楽しかったか」「うまく描けたか」の2つの問い（3段階の記号選択）と授業の感想を記述するアンケート調査を依頼した。

結果として、次のことが挙げられる。

- 全体としては大部分の児童が肯定的に回答していることから、満足する作品づくりとなったと思われる。
- 「あまり楽しくなかった」「あまりうまく描けなかった」と回答した児童は、「じかんがすくなくて ぜんぜんかけなかった。」と感想として述べている。当該児童の作品と併せて分析をしたかったが、作品を特定できていないので次年度の課題である。



図 10 授業後の児童へのアンケート調査結果

- 大学せいの人が「うまいね」と言ってくれたのでうれしかったです。いろんな色をいっぱい使ってみて とてもカラフルで かわいい かたつむりができました。
また、高松大学で 図工のじゅぎょうを したいです。(ア.ア.女子)
- ペンがあってぬりやすくてうれしかったし楽しかったです。できるだけ大きく できるようにがんばりました。いえでもかいてみました。上手にできてうれしかったです。(ア.ア.男子)
- さいしょ かきはじめた時は ぜんぜん「うまくかけてないなあ～」と言ってたらお姉ちゃんが「ううん、ぜんぜん上手だよ！」とばけましてくれたから
わたしは「絵がじょうずなんだあ～」と思いました。(ア.ア.女子)
- クレパスやペンで すきなように かいていい と聞いて まよったけど ペンで かくことにして かいてみたら とてもきれいに ぬれたので とてもたのしかったです。(ア.イ.女子)
- 先生のお手本を よく見てかいたら きれいにかけました。次は ひとりで かけるように がんばります。(イ.イ.男子)
- じかんがすくなくて ぜんぜんかけなかった。(ウ.ウ.女子)

図 11 授業後の児童の感想（抜粋）

(4)「教職実践演習」(4年必修科目)での授業報告

本授業について、どのような指導を行い、どのような作品づくりがなされたかを、4年の教職実践演習の授業(10月11日)で報告し、4年生に対して指導方法の是非について意見を求めたところ、次のような回答があった。特に、「参考作品を用意したこと」「描く順番を示したこと」の2点について意見を求めた。

なお、同授業では、あらかじめ酒井式描画指導法など、描く対象(場面)、材料、技法を同一にした指導方法について、県内の小学校の教室掲示を紹介するなどして、指導の是非について議論している。

※ 文末の()内の賛成・反対は、「酒井式描画指導法」に対するもの

- 絵の苦手な子どもは白紙の状態から描き進めるのは苦痛だと思う。描き方や描く順番が決められていても、かたつむりの大ききさや色、使う道具などは自由であるため、子どもたちは楽しんで描くことができていると思う。(※賛成・女子)
- 参考作品や描く手順を示すのはとてもよいと思います。なぜなら私は絵を描くのが苦手で、描く手順を示してくれた方が取り組みやすいからです。しかし、色の付け方は個性が出た方が面白いので、参考作品を事前に見せすぎず、子どもの自由な発想を促すよう指導できたらよいと思います。(※どちらかと言えば賛成・女子)
〔酒井式描画指導について〕 絵を描くのが苦手な私は図工や美術の時間が苦痛で仕方なかったです。「酒井式描画指導法」では全員が足並みそろえて絵が描けるので、絵を描くのが苦手な子どもでも「上手に描くことができた」という成功体験を与えることができると思います。しかし、自由に描く楽しさを知ってほしい題材もあると思うので、毎回「酒井式描画指導法」を用いるのは良くないと感じます。必要に応じて取り入れると良いのではないのでしょうか。(同女子)
- 「自由につくって～描いてね～」と先生に言われてもどうしたらよいか分からない児童は少なくないと思う。それだったら事前に描く手順を示し、描き方のポイントを押さえたうえで自由に描き方を工夫させればよい。図工に苦手意識をもつ児童にも出来上がった自分の作品を見て自信を持てるように指導したい。(※どちらかと言えば賛成・男子)
- かたつむりの体の構造や目玉の位置、渦巻など、理科的な知識を押さえているので、どの作品もちゃんとかたつむりになっている。それでいて、子どもたちによって形や色が様々に工夫されていたり、親子で描いたり、背景を描いたりして自由に表現を楽しんでいると思う。(※どちらかと言えば賛成・男子)
- かたつむりの実物を見て描くわけではないので、線描きまではみんな一緒によいと思うが、それ以降は、特に描き方などを指導せずに描かせたい。しかし、最低限の技術は教える必要があることから、そこの両立をできるように色々と考えながら授業したい。(※どちらかと言えば反対・女子)
- どこからどう描けばよいか分からない児童にとって描く順番を示すことは良いと思うが、一方で好きな順番で自由に描きたい児童もいる。真似て学ぶことも大事だが、どうしても皆同じような作品になっていると思う。(※どちらかと言えば反対・男子)

図 12 授業報告を聞いた学生の感想

(5) 学生の子どもたちへの助言

教育実践演習に出席した4年生13名に、子どもたちの作品26点（写真）から3点選び、じょうずに描けているところや誉める言葉を書いてもらった。以下の作品は、3名以上の言葉が寄せられた作品である。

①



- ・目が輝いていて素敵だね。
- ・やさしい色遣いで水玉模様が素敵なカタツムリだね。

②



- ・殻や胴体の模様が工夫して描いているね。
- ・たくさん色が使えているね。

③



- ・いろんな色をいっぱい使って3匹も描けているね
- ・いろんな色の輪郭線で丁寧に描けてるよ。国語の教科書に載ってるみたい。

④



- ・色が落ち着いていて大人っぽいね。赤ちゃんカタツムリがとても愛らしいね。
- ・よく見るとちっちゃなカタツムリをお母さんカタツムリが見てて、ほほえましい。

⑤



- ・赤や黄色だけを使って描いているね。
- ・色もキレイだし、目の描き方が個性的！
- ・手が生えていて面白い！印象に残るよ！

⑥



- ・ピンク色がとてもかわいいアイドルのようなカタツムリだね。
- ・リボンや帽子がとてもかわいいニコニコカタツムリだね。

⑦



- ・殻や胴の模様を、塗りつぶさずにくくると線だけで工夫して描いてるね。
- ・形も色も真似していないとてもダイナミックでカラフルで魅力的な作品だよ。

⑧



- ・本物のカタツムリみたいだね！
- ・カタツムリの周りの雲や水滴、葉っぱや花も描いたね。とても上手！
- ・カタツムリへの強いこだわりを感じるね。

図 13 児童作品と学生の評価（誉め言葉）

(6) テレビ放送画面から

当日は、News Park KSB（瀬戸内海放送）と RSK イブニングニュース（山陽放送）の2社が取材に訪れ、夕方に放送された。

〔News Park KSB（瀬戸内海放）〕



〔RSK イブニングニュース（山陽放送）〕



図 14 当日夕方のテレビ放送から

3—2. 指導の実際 令和6年「にじいろすいぞくかん」

(1) 本時の学習過程

- ① 本時の題材（描くもの）を知る ② 魚の体の特徴を知る

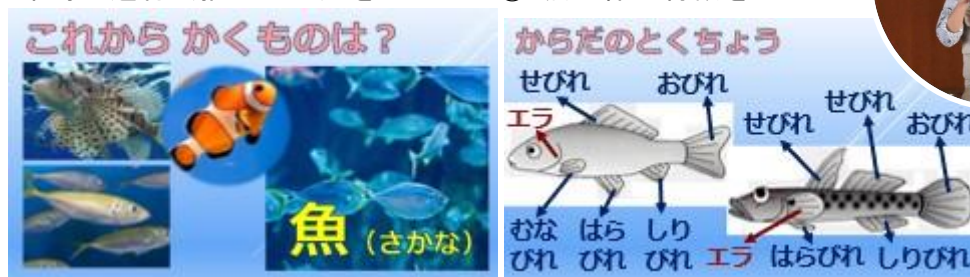


図 15 スライド（魚）

- ③ 参考作品を見て、めあてを知る

めあて

「クレヨンやパスを使って、描くもの（魚）の特徴をとらえ、形を工夫して色彩豊かに、想像して描こう！」



図 16 スライド（他校の1年生の作品）

他校の1年生の作品から、みんな同じ形や色遣いとなっていることに気づき、3年生として魚の形や色遣いを工夫することを確認する。



図 18 スライド（教師の作品）



図 17 スライド（魚のイラスト）

いろんな形や色の魚をイラストを見て知るとともに、参考となるよう印刷して配布した。

学生の作品は、本授業のために「図画工作Ⅰ-Ⅰ（2年）」で学生が描いたもので、当日会場に掲示した。



図 19 実物掲示（学生の作品）

④ 描き方（制作手順）を知る



図 20 スライド（制作手順）

⑤ 制作

① 線描き

鉛筆で下描きをして、クレパスや水性マーカーで線描きをさせた。
線描きの色は何色を使ってもよいこととした。



② 色塗り

〔パスを使って〕



〔水性マーカーを使って〕



図 21 制作風景

(2) 本時の学習指導案

アシスタントの学生たちが児童たちへ指導支援を適切に行うために作成・配布した。

古高松南小学校3年生 高松大学での図工教室 学習指導案

日 時 2024 年（平成 6 年）5 月 2 日 10:40～11:40
場 所 高松大学 1 号館 1401 講義室
指導者 大学教員 1、学生（4 年生 6 名）、引率教員（4 クラスの学級担任）
題 材 オイルパステル（パス）でカラフルな魚を描く（造形トレーニング）
ねらい 色や形に対する造形的センス（感性）を培う
めあて 色や形を工夫してカラフルな魚を描こう

〔検討点〕 描き方をどこまで指示・制約するか？ 技法指導と創造性の問題
提示する参考作品の質と量、提示の仕方
・参考作品の印刷配布の是非
・描き方（手順）を示すことへの是非

準備物 [小学校が持参] 八つ切り白画用紙、クレヨン、パス、新聞紙（下敷き）
[大学が用意] 提示資料 パワーポイント教材（教室設置の機器で投影）
展示用の学生作品（段ボールに貼付け）、教師作品
児童への配布プリント（A4）
描画材料 クレヨン、パス、水性マーカー 予備
児童用アンケート（学級担任へ依頼し、後日回収）
指導過程 学生アンケート（授業終了後に記載し、回収）指導の流れ

学習内容・活動	留意点
講義室へ入室し、クラスごとに着席する。 1 講義室前面のスクリーンにより、本時の活動を知り、活動への意欲をもつ。 (1) 指導者を知る（教員、学生）。 (2) 制作内容を理解する。 ・魚の特徴を考える。 ・柞田小・太田南小の作品の特徴を考える。 ・いろいろな魚の表現（形や色）を知る。 ・描く手順（順番）を知る。	○学級担任が指導 ○描く準備をしておいてもよい。 （学級担任と相談） ○パワーポイントに沿って説明、 発問を行いながら進めていく。 ○新聞紙を敷いて描き始める。
2 制作開始 (1) 材料等の準備 (2) 制作 (3) 片付け	〔個別指導の観点〕 ・よいところを具体的に積極的に褒める。 ・画面いっぱい大きく描かせる。 小さくなった児童にはスペースに2匹 目や海の生き物や海藻を描かせる。 ・迷っている児童には、連続するマス目を描かせて、 にじ色に塗らせるとよい。 ・指示的な言葉ではなく「～の方法もあるね」と 児童に決めさせる。 ・席を離れて掲示作品を見に行かせてもよい。
3 完成、振り返り	○パスの“塗りカス”を机や床 に落とさないよう指導する。

図 22 図工教室（5/2）の学習指導案

(3) 授業後の児童へのアンケート調査

昨年と同様に、授業後に学校に戻った児童たちに、「楽しかったか」「うまく描けたか」の2つの問い(3段階の記号選択)と授業の感想を記述するアンケート調査を依頼した。

結果として、次のことが挙げられる。

- 全体としては、すべて児童が肯定的に回答していることから、満足する作品づくりとなったと思われる。
- 「あまり楽しくなかった」と回答した児童について、本人の感想や作品の分析を行おうと考えていたが、「あまり楽しくなかった」と回答した児童はいなかった。

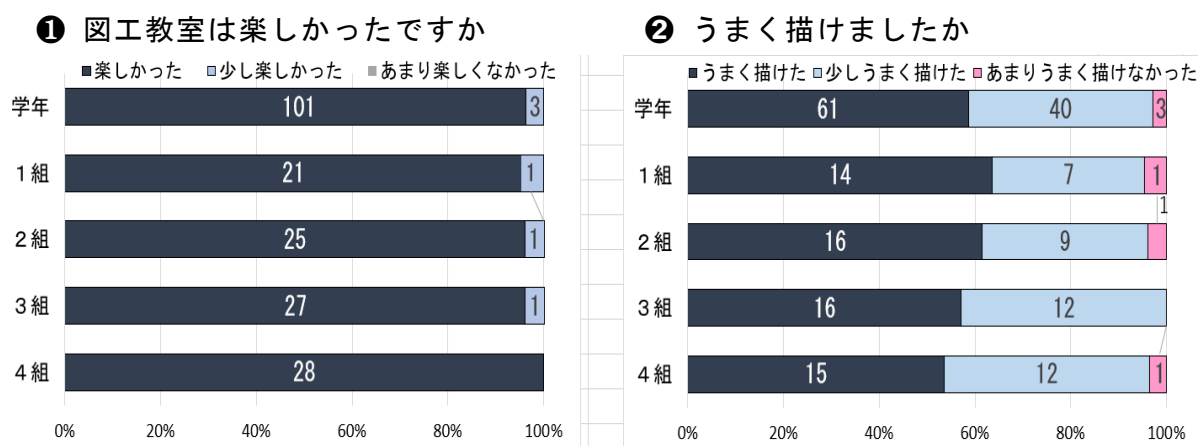


図 23 授業後の児童へのアンケート調査

- 絵がじょうずじゃないけど たかまつだいがくで おてほんを ちゃんと みてかけば じょうずにかけて うれしかった。(ア.ア)
- 教えてくれたじゅんばんにかくと うまくかけました。大学生が「クレヨンのつかい方が うまいね。」と言ってくれて うれしかったです。自分は 絵をかくことが にがてだけど、やさしく教えてくれたので うまくかくことができました。(ア.イ)
- 形やもようも きれいにかけて 色もそうぞうできて うれしかったです。目のひかりはむずかしかったけど お手本をみながらかけば きれいにかけました。(ア.ア)
- 線をかいて 色をにじ色にするのが 楽しかった。つぎは もっと線や形を ふくざしにして めずらしいもようの魚がかきたい。(ア.イ)
- いろんなアドバイスをしてくれたからいつもより上手にかけました。ほめてくれたり、はなしかれてくれてうれしかったです。(ア.ア)
- じゅうにかくことができもとてもたのしく、上手にできたと思います。いろいろな色がつかえて。とてもいい絵になったと思います。わたしは絵がとくいなほうではないですが、とてもたのしく、じしんもつきました。(ア.ア)
- いろんな色が使えて楽しかったです。つぎはいろんな虫の絵をかきたいです。テントウムシ・トンボ・カブトムシ・チョウをかきたいです。(ア.ア)

図 24 授業後の児童の感想 (抜粋)

[全体的な感想]

子どもたちが図工をしている場面を久しぶりに見ましたが、やっぱり子どもたちの発想力は豊かでおもしろいなと思いました。画用紙に鉛筆でいきなり魚を描くことに抵抗を感じている子どもと、そうでない子どもがおり、図工の指導は得意・苦手が分かりやすいと実感しました。

「〇〇が素敵だね」「大きく丁寧に描けたね」などと、具体的に声を掛けると嬉しそうで、教員の声掛けが「やる気」につながると感じました。

「先生、見て!」と嬉しそうに見せてくれたり、「持って帰りたい!」「まだまだ続きがしたい!」と言ったりして夢中になって取り組むことができている良かったです。自由に描くことの楽しさ、面白さ、難しさに改めて気付くことができました。

[検討点についての感想・意見]

描き方を指示したり、手本を見せたりすることで、子どもたちの絵が似たようなものになってしまうこともあると思いますが、子どもたちの様子を見てみると、描き方の指示や手本があることは、楽な気持ちで、楽しんで描くために必要だったと感じました。何を描こうか、どうやって描こうかと悩んでいる子どもに対して、「こんな魚はどう?」「この部分は、どんな色にしようか?」などと、具体的な例を示しながら話すことで、悩んでいた子どもも、鉛筆やクレヨンで描き始めることができました。また、配布した手本の魚のプリントを「持って帰って家でもう1回描きたい」と言っていた子どもも何名かいたため、手元に資料があれば、また自分でやってみることができたり、家族との話題にもなったりするので、配布資料はあってよかったと思いました。

最後に、「自由のよさと難しさを感じました。図工の得意な子どもと苦手な子どもでは、「自由に描きなさい」と言われた時の活動に対する「やる気」に大きな差が出てしまうと思いました。その際に、教師の働きかけが重要だと思いました。

図 25 指導に当たった学生の感想



図 26 制作風景と学生の指導の様子

(5) 児童の作品



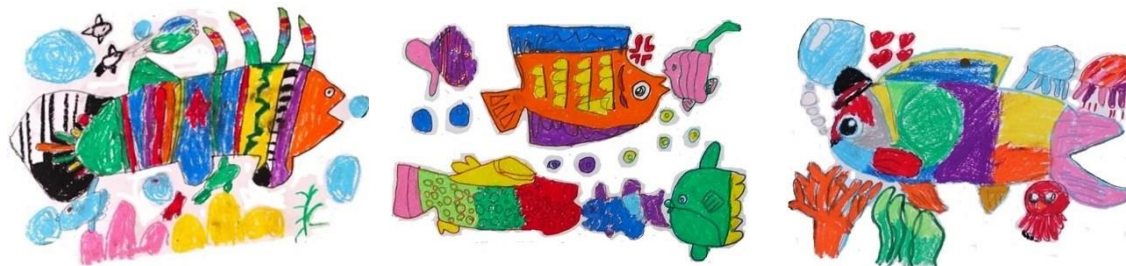
図 27 掲示作品（R6. 6. 3 古高松南小学校 掲示板より）

〔表現タイプ別〕

A 指示どおり、画面いっぱいに大きく描いた

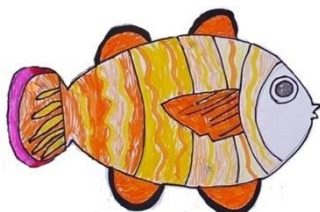
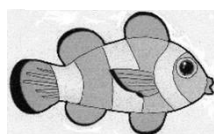


B 小さくなったため、2匹以上描いたり、背景を取り入れたりした

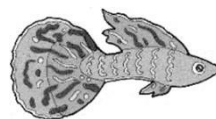


C 参考作品をお手本に、形をほぼ真似て描いた

〔配布プリント〕



〔配布プリント〕



D 参考作品にはない魚（魚など）を描いた



ナマズを獲りに行った
たので描きたかった。



エビが大好き

これらのように提示したり印刷して配布したりした参考作品に全く影響を受けていない作品がある。



図 28 表現タイプ別の児童作品掲示作品

4 今後の課題及び取り組み

4. 1 大学で図工の授業を行うことの意義

昨年度から、高松市立古高松小学校3年生約120名が校外学習（春季遠足）で校区内にある本学を訪れている。その際のプログラムが、①学内の見学、②図工の授業、③中庭でお弁当、④学生による絵本の読み聞かせとなっている。

古高松南小学校は、本学にとっても県外出身の学生の教育実習（4週間）や学生ボランティア（毎週1回午前中）を引き受けていただいております、さらにここ数年間で本学の卒業生2名が勤務している関係の深い小学校である。

この度の、図工の授業の実施は、本学教員が児童に図工の授業を提供するだけでなく、大学にとっても学生の児童たちへの個別指導のまたとない経験（学生の有志が参加）であり、大学の授業「教職実践演習」などで報告することにより、図工の授業の在り方について考えさせることができるという大きなメリットがある。

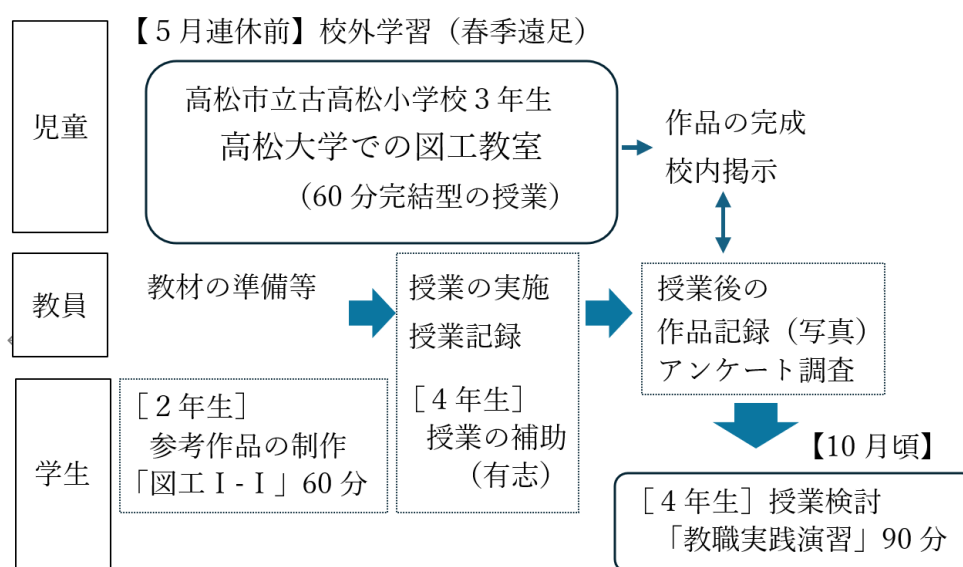


図 29 構造図（古高松小学校児童の高松大学での図工授業）

4. 2 題材設定について

(1) 描画材料の設定

題材の決定に際しては、制作教室等の関係から、「絵に表す活動」とした。

他に「造形遊び」や「立体、工作に表す活動」も考えられたが、材料・用具の準備の関係や指導者の指導経験から、子どもたちが生き生きと取り組む適切な教材を見出すことができなかった。

また、「絵に表す活動」の描画材料については、「小学校学習指導要領解説図画工作編」では、1・2年は「クレヨン、パス」を、3・4年は「水彩絵の具」を挙げているが、120人以上が余裕をもって机上で絵が描ける3つの大講義室には、図工室にあるような「流し台、がないことから、3年生であっても「クレヨン、パス」のみを使用して絵を描くこととした。

さらに、「クレヨン、パス」を補完する描画材料として、紙に描いて発色のよい水性顔料マーカーを用意した。

(2) 描くものの設定

何を描くか（絵に表すか）という題材について、去年は「おしゃれなカタツムリ」とし、今年度は「にじいろすいぞくかん」とした。

題材名から、たくさんの色を使って描くことをイメージさせ、造形的な創造活動を楽しもうとする意欲や表現する楽しさを喚起することをねらった。

2つの題材とも、描く対象（実物）が目の前にあって、それを「見て描く」いわゆる写生ではなく、また「かたつむり」「さかな」とお題（描く対象）が決められているものの、描く対象の写真を見たり、他校の児童作品や様々なイラストを見たりして、そこから形や色を自由に発想し、想像を膨らませて描こうとするものである。

(3) 題材の自由度について

本題材については、流し台のない教室で1時間という時間的制約があったことから、描画材料も描く対象も限定的なものとなったが、私のこれまで、「絵に表す活動」の指導では、様々な描画材料を用意し、児童が材料を選択して、材料の特徴が生かされた描き方を工夫させてきた。次の作品は、高松ユネスコ協会主催の「夏休み小学生絵画教室」（平成30年度）で指導した小学生の作品であるが、クレヨン・パス・水彩絵の具・墨汁・ペン・マーカー・コンテ・パステルと様々な描画材料を用意し、児童が選択している。



図 30 夏休み小学生絵画教室（H30.8.2 高松市こども未来館）

4. 3 絵を描くのが苦手な児童への指導題材設定について

絵を描くのが苦手な児童の多くは、“形がうまく描けない、児童である。かつて小学校でクロッキーが盛んにおこなわれている頃は、形をうまく描けている絵が、いわゆる“うまい絵、”とされていて、人物をモデルに形をとらえる練習がよく行われていた。教科書に掲載されている児童の作品も写生が多く、絵に表す活動とえば“見て描く絵、”が主流であったが、苦手意識をもつ児童に対しては、次のような指導が必要である。

(1) 写実的な絵だけが絵の魅力ではないことを知る

形が多少ひん曲がっていても、うまくとらえられていなくても、また、はみ出すなど雑に塗られていても、魅力ある絵はいっぱいあることに気付かせたい。ひん曲がっている線や、大胆に塗られていることが生き生きとした表情を生み出したりすることを感じ取らせたい。そのためには、そうした絵をたくさん見せることが必要である。そして児童たちに「こんな絵を描きたい」「こんな絵なら描けそうだ」と思わせなければいけない。

もちろん、写実的な絵に魅力を感じ、そうした絵を望む児童もいる。大切なことは、様々な描画材料を用意し、児童たちの望む表現のタイプに応じた指導を行うことである。



モデルの花

〔視覚型〕 割りばしペンで線描き（墨汁）し、パステルで彩色

〔触角型〕 ペンで線描きし、水彩絵の具（濃い塗り）で彩色

図 31 夏休み小学生絵画教室（H30. 8. 2 高松市こども未来館）

(2) 低学年で形や色に親しむことのできる造形活動に取り組む

「おしゃれなかたつむり」や「にじいろすいぞくかん」は、八つ切り画用紙に比較的短時間で描く形や色の練習教材としての作品づくりとして実施したものである。

こうした気軽に取り組むことのできる練習教材を用いて、形を描いたり色を塗ったりする造形活動の楽しさを味わわせたい。

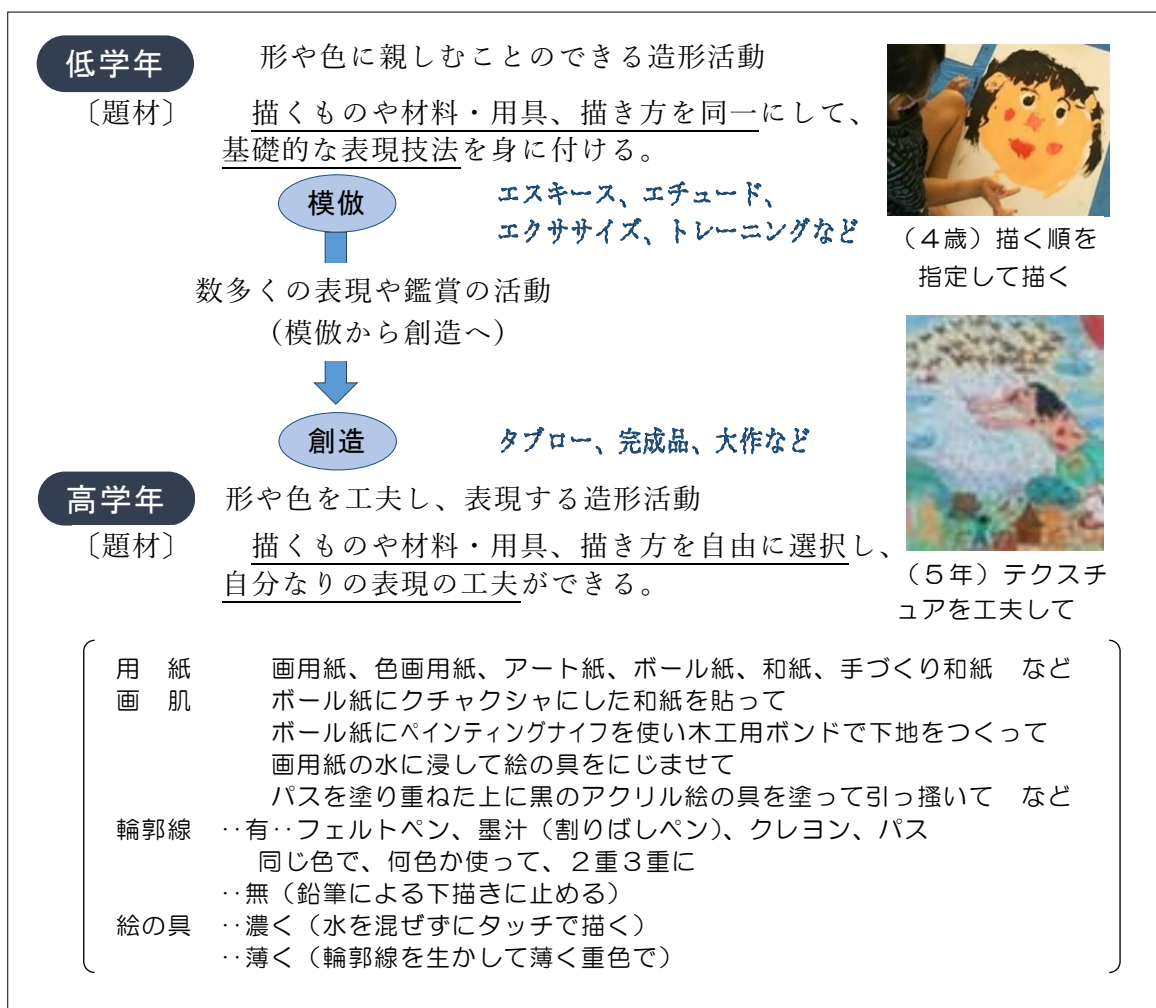


図 32 「絵に表す活動」の指導

(3) 絵を描くことが苦手な児童へ参考作品を用意したり描き方を指導したりする

本授業では、描く対象や材料を指定したり描く手順を示したりした。さらに「参考作品を印刷して配布」したり、「教師の作品を展示」したりした。

そのため、それらをお手本にして真似て描く児童が見られた。



図 33 参考作品を真似て描かれた例

5. おわりに

本稿では、本年と昨年に本学で 100 分間実施した高松市立古高松小学校の 3 年生への図工の授業について、当日の具体的な提示物や配布資料、学習指導案などの具体的な指導内容を示すとともに、授業後の子どもたちの作品（表現タイプ別など）やアンケート調査結果、指導補助員として参加した学生たちの感想等を掲載し、授業の全容を明らかにした。

その結果、本学の学生たちを含めて指導に携わる方々に、小学校図画工作科の「絵に表す活動」の指導の在り方について、特に、子どもたちが示された順番どおりに描いたり、参考作品を真似て描いたりすることの是非について、考えていただける材料が提供できたと考えている。

来年度以降、同様の授業を行う機会が得られたならば、事前に学年・学級の先生方の理解・協力のもと、抽出児童を設定し、授業後に当該児童の作品やアンケート調査への記入内容とともに、担任の先生から聞き取ったことも併せて掲載し、題材設定や指導が適切であったかどうかを検証したいと考えている。

[参考文献]

佐々木啓祐（2022 年）「研究授業『小学校図画工作科の現状と課題』についての考察」

高松大学 研究紀要第 78 号

文部科学省（2018 年）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 図画工作編」